

海洋プラスチックごみ問題から考える SDGs シンポジウムの開催結果について



関西広域連合

令和元年 7 月 7 日
本 部 事 務 局

近年、海洋プラスチック問題が世界的にも重要な課題と認識され、その対策が国内外で求められており、G20 大阪サミットにおいても議論された。

この時機を捉え大阪府と関西広域連合は、SDGs や海洋プラスチック問題をキーワードに、国や産業界における環境関連の最新情報をはじめ、他団体の取組等に関する情報を共有し、企業・事業者・NPO 等が自らの活動に活かしていただくことを趣旨としてシンポジウムを開催した。

当日は約 340 人の国や自治体職員、教育関係者や業界関係者などが参加するとともに、約 10 社の報道機関の取材があり、シンポジウムの内容や今後のプラットフォームへの期待などについて新聞・TV 等の各媒体において報道が行われた。

(1)開催日時 令和元年6月 11 日(火) 13 時 00 分から 16 時 50 分

(2)場 所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)10F 1003 会議室

(3)主 催 大阪府・関西広域連合

(4)概 要 (シンポジウム開催プログラムは裏面のとおりに)

本シンポジウムの冒頭挨拶では、吉村大阪府知事が「海洋プラスチックごみ問題は世界共通の課題として解決して行きたい」と述べられ、第一部では、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の方策に「再生可能資源の利用」等を追加したうえで、3R プラスとして取組を行うことの重要性和海ごみ対策は継続的で効果的な回収が求められることについて講演が行われた。

第二部では三日月滋賀県知事の宣言により「琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォーム」が発足し、琵琶湖・淀川流域におけるプラスチックごみ抑制に向け、情報の共有等を行っていくことが確認された。

これを受け、企業・事業者・NPO 等が自らの活動に活かしていただくことを期待して、広域連合が招聘した有識者や環境省からの報告及びプラットフォーム関係団体によるパネルディスカッションを行い、海ごみ対策の最新情報をはじめ、現在までの活動の取組と今後の方向性、事業者や消費者等に向けたメッセージの発信が行われた。

(5)アンケート結果(回答数:157件)

○シンポジウムのプログラムの満足度 64%(満足・やや満足と回答)

○琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会海ごみ発生源対策部会の取組報告への満足度 85%

○パネルディスカッション「海ごみ対策における各団体の取組と今後について」の満足度 75%

○その他意見として、環境省が発表したレジ袋有料化までの道筋への不安やプラットフォームへの期待、プラスチックごみに対する消費者の意識向上に資する啓発の必要性について意見があった。



吉村大阪府知事
による開会挨拶



プラットフォーム立ち上げ宣言
三日月委員(滋賀県知事)



業界団体関係者を招き
パネルディスカッションを開催



シンポジウム会場は満員となっ
た。

■シンポジウム開催プログラム

【開催挨拶】

- シンポジウム開催挨拶
吉村洋文大阪府知事

【第1部 基調講演等】

- 基調講演「プラスチック資源循環に向けた基本原則」
京都大学環境安全保全機構附属環境科学センター長・教授 酒井伸一氏
- 特別講演「海洋ごみ問題の現状とその対策について」
鹿児島大学産学・地域共創センター 特任教授 藤枝 繁氏
- 大阪府及び豊かな環境づくり大阪府民会議の取り組み報告
大阪府環境農林水産部副理事 下村善嗣氏

【第2部 プラットフォーム立ち上げ宣言・海ごみ発生部会の取組発表等】

- 琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォームの立ち上げ宣言
三日月大造委員(滋賀県知事)
- 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会海ごみ発生源対策部会の取組報告
琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会海ごみ発生源対策部会座長 原田禎夫氏
- 海ごみ対策における国の動き
環境省近畿地方環境事務所環境対策課課長 遊佐秀憲氏
- パネルディスカッション「海ごみ対策における各団体の取組と今後について」
モデレーター:琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会海ごみ発生源対策部会座長 原田禎夫氏
パネリスト:日本チェーンストア協会関西支部事務局次長 古株徹氏
(一社)全国清涼飲料連合会企画部長 石黒隆氏
(一社)日本フランチャイズチェーン協会環境委員会委員長 西山純生氏
豊中市環境部減量計画課課長補佐 渡邊好秀氏